【給食協会賞】給食へのあふれる思い

高棚小学校　神谷　和花

私は毎日、その日の給食のこん立を見て学校へ登校することが習慣になっています。給食の楽しみがあると、「がんばろう！」というエネルギーが自然とわいてきて、私にとってなくてはならない大切な存在です。

私が特にお気に入りのこん立は、何と言ってもビビンバです。地産地消のチンゲンサイやもやしが入っていて、きん糸たまごといろどりのバランスもとてもきれいです。あまからい味付けも最高で、口に入れたしゅん間に視覚・きゅう覚・味覚が一気にし激され、ふわあっと幸せな気持ちが口と心の中に広がります。クラスの友だちも笑顔であふれていて、ビビンバが人を動かすパワーはい大です。

また、入学・進級・卒業などのお祝いこん立や、こどもの日、七夕、クリスマス、アジア大会応えん、といった季節の行事イベントのこん立も、毎月とても楽しみにしています。

季節の移り変わりを感じることができるし、友だちと行事やイベントの話で盛り上がり、明るい気持ちになれるからです。そして日々のメニューとはまた違った特別感があって、ワクワクとした豊かな気持ちももたらしてくれるからです。

給食が出来上がる過程を自分の目で見て学びたいと思い、五年生の時には、夏休み調理場探検に応募し、参加しました。

調理場の中に入る際には、エプロンを着用し、ぼう子の中にかみの毛をきちんとしまいました。そして、数回手を洗い、衣服のほこりなどを取り除くエアーシャワーも念入りに浴びました。

また、野菜は土や虫などを落とすために何度も丁ねいに洗うこと、機械や調理器具もきれいを保つことを教えていただきました。人だけではなく、食材や機器に対してもてっ底した衛生管理が行われていることに、おどろきました。

そして、大きな機械や調理器具を使い、手際よく調理が進められるよう、各ポジションの方々が意思のそ通を図り協力し合いながら、間違いのないように作ってくださっていることも教えていただきました。

体験を通して、私たちの給食は、食材の生産者さんやこん立を考えてくれる栄養士さん、調理してくださる方、運ぱんしてくださる方など、大変多くの方々の温かな気持ちと努力が込められていることをはだで感じました。

これからも感謝の気持ちを忘れず、美味しさと幸せをかみしめながら、毎日の給食をいただきたいと強く思います。